

じなければならない。もしも拒否して本国に帰れば、二度とアメリカへの入国許可は出されないということは石黒も聞いていた。

また、12月7日（日本時間12月8日）のハワイ・真珠湾攻撃の日には、「明日、出てくれば、何があるかわからないぞ!」と冗談半分に脅された?こともある。それでも構わず出社した。そんな石黒の人柄に親近感を覚え、しだいに親しい友人が増えていく。いまでも連絡を取り合う関係が続いている。

幼少期から自然に親しみ、人間と自然との共生に深い関心を抱くようになっていた石黒は、帰国する年の1970年4月22日、あるイベントに参加して深い感銘を覚え、その後の人間・石黒の生き方を決定づけることになる。イベントとは、ニューヨー

ク五番街で行われた「第1回 Earth Day（地球の日）」だった。全米で約2000万人が参加したといわれるイベント。ニューヨークでは、正午に五番街の交通をすべてストップして実施された。このとき石黒が撮影した写真は、N.Yタイムズが保持していないものだった。

このイベントは、加速する文明の発展が及ぼす自然破壊に対して警鐘を鳴らすものだった。地球環境に関する関心が生まれた日といわれる。

深い感銘を覚えたまま石黒は帰国の途に就いた。そして2年後の1972年、「自然を生かしながら、より望ましい環境空間を創造する」ことをめざし、PES建築環境設計を設立する。事務所名に環境の二文字を入れたのは、Earth Dayの感銘の強さ故である。

1970, April 22 Earth Day at 5th Av. New York (Nuclear Threat, Air Pollution)



第1回地球の日の写真（撮影：石黒隆敏）